



保育科 准教授

青柳 宏幸 (あおやぎ ひろゆき)

Aoyagi Hiroyuki

自己紹介 (プロフィール)	山梨県の隣、神奈川県に生まれ育ち、この四月から縁あって山梨にやって参りました。山梨県の全市町村を訪問することが当面の目標です。研究では、主にカール・マルクス (1818-1883) の教育思想を研究してきましたが、最近は道徳教育などにも関心を広げています。
学生へのメッセージ	短大で過ごす2年間は短いと思うかもしれませんが、その分ぎゅっと濃縮され充実した時間を経験できる貴重な2年間です。学生時代に「やりすぎた」という後悔はすることはまずありませんが、「もっとやっておけばよかった」と後悔することはよくあります。ぜひ、授業、実習、サークルなど、色々なことに貪欲に挑戦してください。
保有学位	博士 (教育学) 中央大学
保有資格・免許	
研究分野	教育思想史 教育哲学 道徳教育論
主な担当科目	保育職の研究 道徳教育の研究 サブカルチャーとメディア
学内での活動	カリキュラム委員会 学外実習委員会 地域連携研究委員会 入試委員会
学外での活動	教育思想史学会事務局幹事
所属学会	教育哲学会 教育思想史学会 教育史学会 日本教育学会

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
マルクスにおける労働と教育の結合の構想—国際労働者協会ジュネーブ大会における挙行論争を手がかりとして—	2008年 9月	『近代教育フォーラム』教育思想史学会、第17号。	国際労働者協会において1860年代に生じた公教育をめぐる論争に注目し、その文脈の中で「労働と教育の結合」というマルクスの主張を検討することによりマルクスの教育思想の特質を明らかにした。マルクスにおいて「労働と教育の結合」とは、子どもの保護を出発点とした大人を含む労働者階級全体の自由時間の創出とそれを活用した社会変革という構想の要約的表現であったことを明らかにした。第7回教育思想史学会奨励賞受賞論文。
マルクスの教育思想	2010年 12月	白澤社	マルクス自身のテキストの内在的な読解を通じてマルクス主義とは区別されるマルクス自身の教育思想を描き出した。特に「労働と教育の結合」という命題に注目し、人間は自然を支配しきることではできないとするマルクスの労働論の展開を押さえながら、この命題が当時の社会的文脈の中で彼が提示した社会変革の具体的提言であったことを明らかにした。
マルクス主義からマルクスへ	2012年 10月	『近代教育フォーラム』教育思想史学会、第21号。	従来、マルクス主義教育学の最重要概念とされてきた「全面的発達」概念をマルクスのテキストに即して検討し直した。その結果、従来考えられていたような教育目的としての「全面的発達」概念はマルクスには存在せず、彼の言う「全面的発達」とは資本制的生産関係の元にある労働の主体としてのプロレタリアートの姿を批判的に把握したものに他ならなかったことを明らかにした。